

# 新年の安寧願う「杉盛」

生田神社 初詣の準備着々



新年に向けてお目見えした「杉盛」＝生田神社

新年を前に、地域の安寧や五穀豊穡を願う正月飾り「杉盛」が27日、生田神社（中央区下山手通1）にお目見えした。神職ら約30人が約2千本の杉の枝を使って高さ約2・5メートルの飾りを作った。来年1月15日まで楼門前で参拝者を迎える。

同神社には、約1200年前の洪水の際に倒れた松

## 師走

2022

の木が社殿を壊したという言い伝えが残る。これにより松は不吉とされ、迎春準備で杉を飾る慣習が続く。

この日は、わらを巻いた丸太を軸に杉の枝を飾り、

縄と麻ひもで縛って球体に整えた。上部にはススキの穂や榊を組み合わせた「厄塚」を取り付け、楼門に垂らした12本のしめ縄と杉盛を結び付けて仕上げた。

同神社権宮司の木田孝朋

さん(61)は「行動制限がないお正月でにぎわいが予想されるが、新型コロナの感染対策を徹底し、気持ち良く参拝していただくよう準備したい」と話した。

(末吉佳希)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

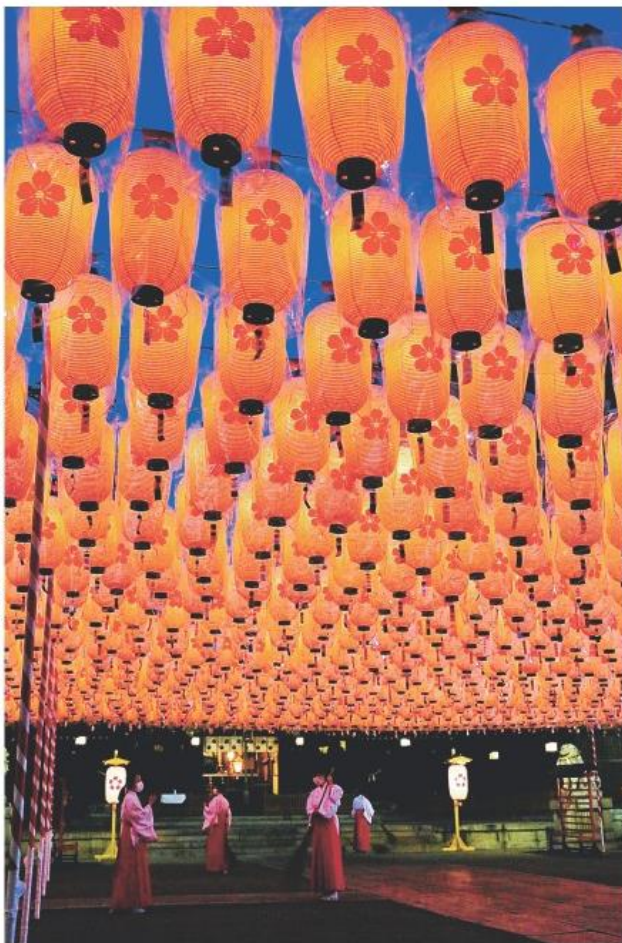
①新年、初詣に行く予定はありますか。だれと、どこに行きますか

②「一年の計は元旦にあり」といいます。どんな意味ですか。

③元旦に新年の目標をたててみましょう



境内を優しく照らす提灯＝姫路護国神社



### 新年照らす提灯 試験点灯

姫路護国神社（姫路市本町）で27日、新年を前に約2千個の提灯をともす「新年万灯祭」の試験点灯があった。夕闇の境内は淡い光に包まれ、迎春準備が着々と進められた。

播磨地域の戦没者遺族らが1978年から奉納。幅約40センチ、奥行き約30センチの拝殿前広場に約3・5メートルの高さから列を作っている。日が暮れた午後5時過ぎ、オレンジ色の明かりが薄暮の空に浮かび上がった。

同祭は1月1日から10日まで。三が日は日没から午後8時、4～10日は午後7時まで点灯される。（大山伸一郎）

#### 姫路護国神社

えべっさんの繪本社「西宮神社」（西宮市社家町）で27日、迎春準備のすす払いと「逆き門松」の設置があった。

（村上貴浩）

■ 西宮神社で「すす払い」 ■



神社のほこりやよごれをササで払って掃除をする「すす払い」の様子＝いずれも西宮神社

## 社殿すっきり 迎春準備万端

すす払いは、宮司らが本殿の中を掃除した後、学生のアルバイトも加わって約20人で隅々まで掃除する。長さ約4メートルのササを使って天井や柱の汚れを落とす光景が恒例となっている。

逆き門松は高さ約10メートルで、三田分社の氏子らが手作業で設置。えびす様に葉先が当たらないように松の葉を逆さにして竹にくくり付けている。

西宮神社では来年1月、一部制限を設けながらも十日えびすでの屋台や、福男選びを3年ぶりに再開する。担当者は「安心安全に気を付けながら、にぎわいが戻ってほしい」と話す。

### 伝統の「逆き門松」据え付け



神社の拝殿前に設置された逆き門松